

2015 年度後期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—経済学研究科—

経済学研究科長 岩崎 尚人

大学院の学生による授業評価の本年度後期の結果は、総合的評価が 4.91 であることから、例年同様に、概ね高い評価レベルにあると思われる。

「教員が授業時間を有効に利用した (4.84)」「教員の話し方は明瞭であった(4.85)」、「授業への教員の熱意を感じた (4.90)」「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した (4.86)」

「この分野の関心と学力が得られた (4.82)」などの諸点では、昨年度 (2014 年度後期) と比較して高く評価される傾向にあり、教員がアクティブ・ラーニングを採用するなど教授法の改善の成果であると考えられる。とりわけ、後者三点については、総合評価とも相関関係が高く、今後もこの点に留意し授業を進めていくことが求められる。

その一方で、学生の出席率、授業の休講・遅刻、授業レベルの適切さ、学習環境などについては、昨年度に比較して、わずかではあるがポイントが低くなっており、今後、この点の改善について継続的に努力をしていくことが必要であると考えられる。